

明治三十六年度冬作試験案内

97

149

062899-000-4

97-149

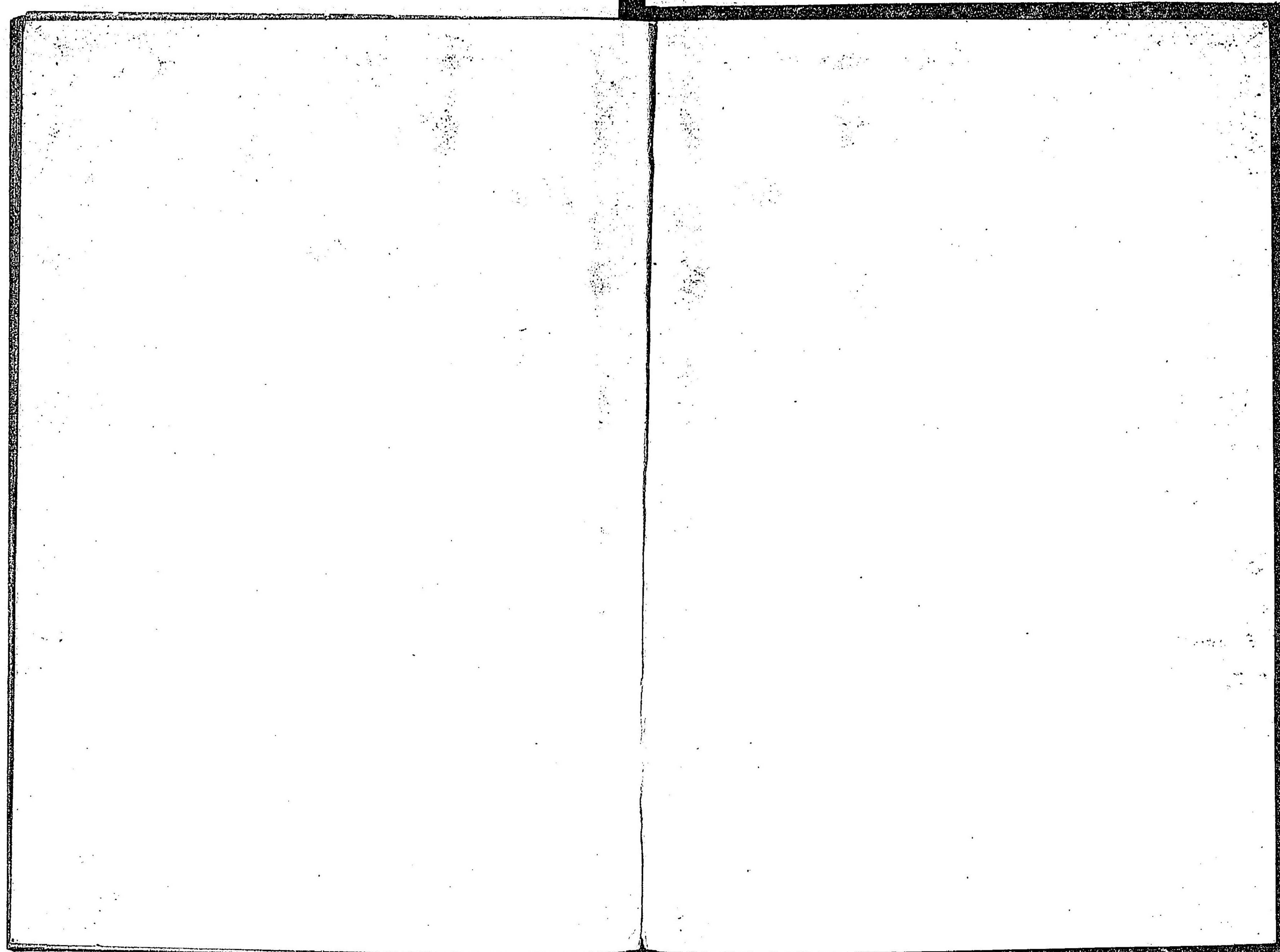
冬作試験案内 (明治三十六年度)

東京府農事試験場

M37

CCA-1960





79-149

東京府農事試驗場三十六年度冬作案内

本場ノ部

〔天 麥〕

耕種ノ梗概

一、整地 畑地ハ前作物收穫後凡五寸ノ深サニ耕起スルト同時ニ土塊ヲ碎キテ地

面ヲ均ラシ(俗ニ「一」ノ鍬ト稱ス)水田ハ稻刈取後馬耕ヲ行ヒ直ニ万能ヲ以テ土塊

ヲ碎キ乾燥スルヲ待チテ更ニ細碎シ地表ヲ均一ニス

一、畦 幅 二尺

一、株 間 一尺

一、種 類 「ゴルデン、メロン」、備前早生

一、撰 種 比重一、二三ノ鹽水一斗ニ付キ食鹽四升或ハ苦鹽汁一斗ノ割合

一、黑穗豫防 夏期土用中六時間種子ヲ冷水ニ浸シ後チ華氏百三十度ノ温湯ニ五分



間浸漬シテ陽乾ス  
一、肥料 一反歩ニ施用スル肥料

肥料名	施用量	含有三成分			價額
		窒素	磷酸	加里	
堆肥	二七〇〇〇〇 <sup>貫</sup>	一、三五〇	〇、七〇二 <sup>貫</sup>	一、七〇一 <sup>貫</sup>	二、七〇〇 <sup>圓</sup>
人糞、尿	一〇八、〇〇〇	〇、六一六	〇、一四〇	〇、二九二	一、八三六
過磷酸石灰	六、〇〇〇	—	〇、九〇〇	—	〇、八一〇
燐灰	四、五〇〇	—	〇、〇九五	〇、二〇三	〇、三六〇
計		一、九六六	一、八三七	二、一九六	五、七〇六

一、播種期 畑ハ十月二十五日。同二十六日水田ハ十一月六日  
一、播種量 一反歩ニ付キ大粒種ハ四升五合小粒種ハ四升（但シ内國種ハ小粒種ト見做ス）  
一、中耕 十二月二十日。三月五日。四月十日前後

一、踏付 莖立前臨時ニ三回施行ス

○第一 種類試験

府下ニ適當スル良種ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 坊主麥
- 第二區 早生麥
- 第三區 備前早生
- 第四區 はきだめ
- 第五區 四國麥
- 第六區 六角シバリエー
- 第七區 半芒
- 第八區 借金根切
- 第九區 獨乙春蒔
- 第十區 虎ノ尾

第十一區 ばらみ

第十二區 野地四石

第十三區 ゴルデン、メロン

第十四區 新ゴルデン、メロン

第十五區 ケーブ

第十六區 タネット

◎第二 整地精粗比較試験(ゴルデン、メロン)

整地ノ精粗ハ收量ニ如何ナル差アルヤヲ試ミルニアリ

第一區 耕耨ヲ行ハズ

第二區 當場普通法ニヨリ耕耨ヲ行フ

◎第三 撰種法試験 其一 (備前早生)

唐箕ニテ數回簸別シテ撰種シタルモノト鹽水ニテ撰種シタルモノトノ優劣ヲ試ミルニアリ

第一區 一回唐箕撰種

第二區 四回唐箕撰種

第三區 鹽水撰種

◎第四 撰種法試験 其二 (大粒種ゴルデン、メロン小粒種ばらみ)

撰種法ト收量トノ關係ヲ驗知スルニアリ

第一區 小粒種 在來撰種六升播  
改良撰種四升播

第二區 大粒種 在來撰種七升播  
改良撰種四升五合播

◎第五 播種法試験(ゴルデン、メロン)

播種ノ方法ヲ異ニセバ收量ニ如何ナル差ヲ生ズルヤヲ試ミルニアリ

第一區 在來ノ如クニ播種ス

第二區 肥料ニ覆土シテ播種ス

○第六 播種期對播種量試驗(備前早生)

播種期ト播種量トノ關係ヲ知ラントスルニアリ

- 第一區 十月二十日播 四升播  
五升播  
六升播
- 第二區 十月三十日播 四升播  
五升播  
六升播
- 第三區 十一月七日播 四升播  
五升播  
六升播
- 第四區 十一月十四日播 四升播  
五升播  
六升播
- 第五區 十一月二十一日播 四升播  
五升播  
六升播

○第七 種子交換試驗(ゴールデン、メロン)

種子ヲ取寄セルニハ如何ナル場所ヨリスルヲ利トスルヤヲ試ミルニアリ

- 第一區 砂土種
- 第二區 粘土種
- 第三區 壤土種
- 第四區 寒地種
- 第五區 暖地種
- 第六區 肥沃地種
- 第七區 瘠薄地種

○第八 種子交換試驗

當場産ト元産地ノ種子ノ優劣ヲ比較スルニアリ

- 三十六年 第一區 原産地種子
- 三十七年 第一區 一ヶ年當場作種子
- 第二區 原産地種子

○第九 黑穗豫防試験(坊主麥)

本試験ノ目的ハ豫防ノ效果ヲ知ラシメントスルニアリ

第一區 無豫防

第二區 夏期種子ヲ冷水ニ六時間浸漬シ後華氏百三十度ノ温湯ニ五分間浸漬ス

○第一〇 人糞尿施用法試験(コルデン、メロン)

普通肥料中人糞尿ノ施用法ヲ驗知スルニアリ

第一區 元肥

第二區 全量ヲ等分シテ一分ヲ元肥ニ一分ヲ寒前ニ追肥トシテ施用ス

第三區 全量ヲ三分シテ一分ヲ元肥ニ一分ヲ寒前ニ一分ヲ寒後ニ追肥トシテ施用ス

○第一一 大豆粕施用法試験(コルデン、メロン)

大豆粕ノ施用法ヲ異ニセバ收量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 元肥ニ施用ス (大豆粕十貫目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫目、葉灰四貫五百目)

第二區 全量ヲ等分シテ一分ヲ元肥ニ一分ヲ寒前ニ追肥トシテ施用ス

○第一二 大豆粕施用法試験(コルデン、メロン)

大豆粕ノ使用ヲ異ニセバ收量ニ如何ナル差アルヤヲ試ミルニアリ

第一區 細末大豆粕施用 (大豆粕十貫目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫目、葉灰四貫五百目)

第二區 醱酵大豆粕施用 (同上)

○第一三 同價肥料試験 其一 (コルデン、メロン)

普通肥料中ノ堆肥ノ全量若シクハ其半量ニ代フルニ大豆粕ヲ以テセバ收量ニ如何ナル差アルヤヲ試ミルニアリ

第一區 堆肥 (堆肥二百七十貫目、人糞尿百八貫目、過磷酸石灰六貫目、葉灰四貫五百目)

第二區 大豆粕肥 (大豆粕七貫二百七十貫目、堆肥百三十五貫目、人糞尿、過磷酸石灰、葉灰ハ同前)

第三區 大豆粕 (大豆粕十四貫五百四十貫目、人糞尿、過磷酸石灰、葉灰ハ同前)

○第一四 同價肥料試験 其二 (コルデン、メロン)

普通肥料中人糞尿ノ全量若クハ其半量ニ代フルニ同價ノ智利硝石若クハ硫酸安母尼亞ヲ以テセバ收量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 人糞尿 (人糞尿、百八貫目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫目、燻灰四貫五百目)

第二區 人糞尿 (智利硝石二貫一百目、人糞尿五十四貫、堆肥、過磷酸石灰、燻灰ハ同前)

第三區 智利硝石 (智利硝石四貫二百目、堆肥、過磷酸石灰、燻灰ハ同前)

第四區 人糞尿 (硫酸安母尼亞一貫三百目、人糞尿五十四貫目、堆肥、過磷酸石灰、燻灰ハ同前)

第五區 硫酸安母尼亞 (硫酸安母尼亞二貫六百目、堆肥、過磷酸石灰、燻灰ハ同前)

○第一五 肥料配合法試驗 其一 (ゴールデン、メロン)

普通肥料中ノ堆肥ニ代フルニ大豆粕ヲ以テセバ收量ニ如何ナル差アルヤヲ試ミルニアリ

第一區 堆肥 (堆肥二百七十貫目、人糞尿百八貫目、過磷酸石灰六貫目、燻灰四貫五百目)

第二區 大豆粕 (大豆粕十七貫六百目、人糞尿百八貫目、過磷酸石灰五貫六百目、燻灰三十一貫六百目)

第三區 大豆粕 (堆肥百三十五貫目、大豆粕八貫九百目、人糞尿百八貫、過磷酸石灰五貫五百目、燻灰二十貫三百目)

○第一六 肥料配合法試驗 其二 (ゴールデン、メロン)

普通肥料中ノ人糞尿ニ代フルニ智利硝石及硫酸安母尼亞ヲ以テセバ收量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 人糞尿 (人糞尿百八貫目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫目、燻灰四貫五百目)

第二區 人糞尿 (人糞尿五十四貫目、智利硝石一貫八百八十目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫目、燻灰七貫八百目)

第三區 智利硝石 (智利硝石三貫九百八十目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫二十目、燻灰十一貫目)

第四區 人糞尿 (人糞尿百十四貫目、硫酸安母尼亞一貫五百四十目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫目、燻灰七貫八百目)

第五區 硫酸安母尼亞 (硫酸安母尼亞三貫八十目、堆肥二百七十貫目、過磷酸石灰六貫二十目、燻灰十一貫目)



○第一七 肥料配合試験 其三 (ゴルデン、メロン)

普通肥料中ノ米糠ニ代フルニ大豆粕及過燐酸石灰ヲ以テセバ收量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 米 糠 (堆肥百五十貫目、人糞尿百五十貫目、米糠二十四貫目、糞灰十八貫目)

第二區 大豆 粕 過燐酸石灰 (堆肥百五十貫目、人糞尿百五十貫目、大豆粕六貫目、過燐酸石灰六貫目、糞灰二十三貫二百目)

第三區 大豆 粕 米 糖 過燐酸石灰 (堆肥百五十貫目、人糞尿百五十貫目、米糠十二貫目大豆粕三貫三百目、過燐酸石灰二貫五百目、糞灰二十貫六百目)

○第一八 肥料配合法試験 其四 (ゴルデン、メロン)

普通肥料中ノ藎灰ニ代フルニ「カイニット」ヲ以テセバ收量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 藎 灰 (藎灰十八貫目、堆肥百五十貫目、人糞尿百五十貫目、米糠二十四貫目)

藎 灰

第二區 カイニット 過燐酸石灰 (藎灰九貫目、カイニット三貫四百目、過燐酸石灰一貫二百七十目、堆肥、人糞尿、米糠ハ同前)

過燐酸石灰

第三區 カイニット 過燐酸石灰 (カイニット六貫七百九十目、過燐酸石灰二貫五百二十目、堆肥、人糞尿、米糠同前)

過燐酸石灰

○第一九 硫酸安母尼亞 智利硝石 施用回数試験 (ゴルデン、メロン)

硫酸安母尼亞又智利硝石ヲ人糞尿ニ代用スルトキハ一回ニ施スト數回ニ分施スルトノ得失ヲ驗スルニアリ

第一區 硫酸安母尼亞元肥ニ施與ス (硫酸安母尼亞二貫六百目、堆肥二百七十貫)

第二區 同上元肥、追肥ノ二回ニ施與ス (過燐酸石灰六貫、糞灰四貫五百目)

第三區 同上元肥、追肥ノ三回ニ施與ス (智利硝石四貫、堆肥、過燐酸石灰、糞灰同前)

第四區 智利硝石元肥ニ施與ス (智利硝石四貫、堆肥、過燐酸石灰、糞灰同前)

第五區 同上元肥、追肥ノ二回ニ施與ス (智利硝石四貫、堆肥、過燐酸石灰、糞灰同前)

第六區 同上元肥、追肥ノ三回ニ施與ス (智利硝石四貫、堆肥、過燐酸石灰、糞灰同前)

◎第二〇 堆肥紫雲英比較試験(ゴルデン、メロン)

- 堆肥ト紫雲英トノ効能ヲ比較スルニアリ
- 第一區 堆肥 (堆肥二百七十貫目、人糞尿百八貫目)
  - 第二區 紫雲英 (紫雲英六十貫目、人糞尿、過磷酸石灰、糞灰同前)
  - 第二區 堆肥 (堆肥百三十五貫目、紫雲英三十貫目、人糞尿、過磷酸石灰、糞灰同前)

◎第二一 過磷酸石灰施用期試験(ゴルデン、メロン)

過磷酸石灰ノ施用期ヲ異ニセバ收量ニ如何ナル差アルヤヲ試ミルニアリ

- 第一區 全量ヲ元肥ニ施用ス(過磷酸石灰六貫目)
- 第二區 全量ヲ寒前ニ追肥トシテ施用ス
- 第三區 全量ヲ等分シテ一分ヲ元肥ニ一分ヲ寒前ニ追肥トシテ施用ス

◎第二二 過磷酸石灰、骨粉比較試験(備前早生)

過磷酸石灰ト骨粉トノ優劣ヲ知ラントスルニアリ

- 第一區 過磷酸石灰 (過磷酸石灰六貫、堆肥二百七十貫、人糞尿百八貫、糞灰四貫五百匁)
- 第二區 骨粉 (骨粉四貫二百匁、堆肥二百三十六貫、人糞尿百八貫、糞灰九貫三百匁)

◎第二三 同價加里肥料試験(ゴルデン、メロン)

糞灰ト「カイニット」トノ優劣ヲ比較スルニアリ

- 第一區 糞灰 (糞灰十八貫目、堆肥百五十貫目、人糞尿百五十貫目、米糠二十四貫目)
- 第二區 カイニット (カイニット五貫五百五十四匁、堆肥、人糞尿、米糠同前)
- 第三區 カイニット (カイニット四貫二百五十目、過磷酸石灰二貫五百目、堆肥、人糞尿、米糠同前)

◎第二四 肥料配合法試験(ゴルデン、メロン)

人糞尿ヲ施スモノト人糞尿ヲ減シ堆肥ヲ以テ補給スルモノトハ收量ニ如何ナル差アルヤヲ試ミルニアリ

- 第一區 人糞尿 (人糞尿百七十五貫目、過磷酸石灰六貫六百六十目、糞灰三十三貫九百目)
- 第二區 堆肥 (堆肥百貫目、人糞尿八十七貫七百五十目、過磷酸石灰六貫四百五十目、糞灰二十五貫二百目)

第三區 堆肥一倍半  
人糞尿

(堆肥百五十貫目、人糞尿四十三貫九百目、過磷酸石灰七貫四百四十目、糞灰二十貫八百目)

◎第二五 施肥法試験(コルデン、メロン)

施肥法ヲ異ニセバ收量ニ如何ナル量ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 在來ノ如ク施肥ス

第二區 磷酸及加里質肥料ハ深ク窒素質肥料ハ淺ク施肥ス

◎第二六 施肥期試験(ゴルデン、メロン)

施肥ノ時期ヲ異ニスレバ生育ニ如何ナル關係アルヤヲ試ミルニアリ

第一區 元肥ニノミ施肥ス (堆肥百五十貫、人糞尿百五十貫、米糠二十四貫、糞灰十八貫)

第二區 元肥及追肥ニ施肥ス (第一區ノ肥料中堆肥五十貫、人糞尿七十貫ヲ追肥其餘ヲ元肥)

◎第二七 肥料用量試験(ゴルデン、メロン)

肥料用量ノ増減ハ收量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 無肥料

- 第二區 當場普通肥料五割減
- 第三區 當場普通肥料二割五分減
- 第四區 當場普通肥料 (堆肥二百七十貫、人糞尿百八貫、過磷酸石灰六貫、糞灰四貫五百多)
- 第五區 當場普通肥料二割五分増
- 第六區 當場普通肥料五割増
- 第七區 當場普通肥料七割五分増
- 第八區 在來肥料 (堆肥百五十貫、人糞尿百五十貫、米糠二十四貫、糞灰十八貫)

◎第二八 收穫期試験(備前早生)

適當ナル收穫期節ヲ知ラントスルニアリ

- 第一區 早刈 (穂ノ黄變シタル時)
- 第二區 中刈 (穂首ノ黄變シタル時)
- 第三區 晩刈 (稈ノ黄變シタル時)

◎第二九 栽培法試験(ばらみ)

附近農家ノ栽培法ト當場法トノ優劣ヲ比較スルニアリ

第一區在來法

第二區當場法

〔小麥〕

耕種ノ梗概

- 一、整地 大麥ニ同ジ
- 一、畦幅 大麥ニ同ジ
- 一、株間 大麥ニ同ジ
- 一、種類 達摩、柳窪
- 一、撰種 鹽膽水撰(比重一、二二)(鹽膽汁一斗ニ水三升ノ割合)
- 一、黑穗豫防 大麥ニ同ジ
- 一、肥料 一反歩ニ用ユル肥料ハ左ノ如シ

肥料名	施用量	含有成分			價額
		窒素	磷酸	加里	
堆肥	一五〇、〇〇〇貫	〇、七五〇貫	〇、三九〇貫	〇、九四五貫	一、五〇〇圓
人糞	七二、〇〇〇	〇、四一〇	〇、〇九四	〇、一九四	一、二三四
過磷酸石灰	四、五〇〇	—	〇、六七五	—	〇、六〇八
葉灰	四、五〇〇	—	〇、〇九五	〇、二〇三	〇、三六〇
計	—	一、一六〇	一、二五四	一、三四二	三、六九二

一、播種期 十月二十三日

一、播種量 一反歩ニ付キ大粒種ハ三升五合、小粒種ハ三升内國種ハ凡テ小粒種ト見做ス

一、中耕 十二月二十日、三月五日、四月十日前後

一、踏付 莖立以前臨時ニ二三回施行ス

○第一 種類試験

本試験ノ目的ハ大麥ニ同ジ

- 第一區 穗 揃
- 第二區 達 摩
- 第三區 早生坊主
- 第四區 赤坊主
- 第五區 相州
- 第六區 十條
- 第七區 饅頭小麥
- 第八區 柳窪
- 第九區 フルツ
- 第一〇區 米國又小麥
- 第一一區 シブメシターラニヤン、ハイブリット
- 第一二區 モルド小麥
- 第一三區 レッド、チャップ

○第二 撰種對播種量試驗(大粒種フルツ、小粒種早生白)

本試驗ノ目的ハ大麥ニ同シ

- 第一區 小粒種 在來撰種四升播  
改良撰種三升播
- 第二區 大粒種 在來撰種四升五合播  
改良撰種三升播

○第三 同種加里肥料試驗(ダルマ)

本試驗ノ目的ハ大麥ニ同シ

- 第一區 藪 灰(大麥ニ同シ)
- 第二區 カイニット(同 上)
- 第三區 カイニット 過磷酸石灰(同 上)

○第四 肥料用量試験(ダルマ)

本試験ノ目的ハ大麥ニ同シ

- 第一區 無 肥 料
- 第二區 當場普通肥料五割減
- 第三區 當場普通肥料二割五分減
- 第四區 當 場 普 通 肥 料
- 第五區 當場普通肥料二割五分増
- 第六區 當場普通肥料五割増
- 第七區 當場普通肥料七割五分増
- 第八區 在 來 肥 料

(堆肥百五十貫目、人糞尿七十二貫目、過磷酸石灰四貫五百目、燐灰四貫五百目)

(堆肥百五十貫、人糞尿百五十貫、米糠二十四貫、燐灰十八貫)

〔裸 麥〕

耕種ノ梗概

- 一、整 地 大麥ニ同シ
- 一、畦 幅 大麥ニ同シ
- 一、株 間 大麥ニ同シ
- 一、種 類 米 稞
- 一、撰 種 小麥ニ同シ
- 一、黑穗豫防 大麥ニ同シ
- 一、肥 料 一反歩ニ對スル施肥量ハ左ノ如シ

肥料名	施用量	含有 三 成 分			價 額
		窒 素	磷 酸	加 里	
堆 肥	二四〇〇〇貫	一、二〇〇	〇、六二四	一、五二二	二、四〇〇
人 糞 尿	九〇、〇〇〇	〇、五二三	〇、一一七	〇、二四三	一、五三〇
過 磷 酸 石 灰	四、五〇〇	—	〇、六七五	—	〇、六〇八
燐 灰	四、五〇〇	—	〇、〇九五	〇、二〇三	〇、三六〇
計	—	一、七二三	一、五一一	一、九五八	四、八九八

- 一、播種期 畑十月二十九日水田十一月六日、同十六日前後
- 一、播種量 一反歩ニ付キ三升五合
- 一、中 耕 十二月二十日前後、三月五日前後、四月十日前後
- 一、踏 付 莖立迄ニ二三回行フ

○第一 種類試験

本試験ノ目的ハ大麥種類試験ニ同シ

- 第一區 舟 麥
- 第二區 大 粒
- 第三區 早 熟
- 第四區 豐 島
- 第五區 米 裸
- 第六區 半 芒 白
- 第七區 わせはだか

- 第八區 南 京
- 第九區 長 毛
- 第十區 豐 年

○第二 肥料用量試験

本試験ノ目的ハ大麥ニ同シ

- 第一區 無 肥 料
- 第二區 當場普通肥料五割減
- 第三區 當場普通肥料二割五分減
- 第四區 當場普通肥料
- 第五區 當場普通肥料二割五分増
- 第六區 當場普通肥料五割増
- 第七區 當場普通肥料七割五分増
- 第八區 在 來 肥 料

(堆肥二百四十貫目、人糞尿九十貫目、過燐酸石灰四貫五百目、燐灰四貫五百目)

(堆肥百五十貫目、人糞尿百五十貫目、米糠二十四貫目、藥灰十八貫目)

〔雜〕

○麥稈真田用種類試驗

麥稈真田ニ適當ナル種類ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 半芒 大麥
- 第二區 鳴海 稗
- 第三區 於七 稗
- 第四區 大部 稗
- 第五區 コビン 稗

○輪栽法試驗 (大麥備前早生小麥柳窪)

畑地ニ施スヘキ有利ナル輪栽法ヲ驗知スルニアリ (但シ本年ハ第四年目冬作ニ當ル)

區名	第一年度		第二年度		第三年度		第四年度	
	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作
第一大麥	陸	稻	大	陸	大	陸	大	陸
第二大麥	陸	稻	陸	稻	陸	稻	陸	稻

第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八
同	同	同	同	馬鈴薯	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	南瓜	南瓜	南瓜
同	同	同	同	南瓜	南瓜	南瓜
同	同	同	同	南瓜	南瓜	南瓜
同	同	同	同	南瓜	南瓜	南瓜
同	同	同	同	南瓜	南瓜	南瓜
同	同	同	同	南瓜	南瓜	南瓜

○水田連作ニ關スル試驗

(大麥備前早生稗麥米稗油 菜東京早生紫雲英倍州)

稻作ノ跡地ノ休閒、連栽、輪栽何レカ得策ナルヤヲ驗知スルニアリ (但シ本作ハ第一年目冬作ニ當ル)

試驗別	第一年		第二年		第三年		第四年		第五年	
	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作	冬作	夏作
第一區	冬耕	稻	冬耕	稻	冬耕	稻	冬耕	稻	冬耕	稻
第二區	春耕	同	春耕	同	春耕	同	春耕	同	春耕	同



輪 栽 第 八 區	連 栽			第 三 區	
	第 七 區	第 六 區	第 五 區		第 四 區
大 麥	苜 蓿	紫 雲 英	油 菜	稗 麥	大 麥
同	同	同	同	同	稻
同	苜 蓿	紫 雲 英	油 菜	稗 麥	大 麥
同	同	同	同	同	稻
稗 麥	苜 蓿	紫 雲 英	油 菜	稗 麥	大 麥
同	同	同	同	同	稻
油 菜	苜 蓿	紫 雲 英	油 菜	稗 麥	大 麥
同	同	同	同	同	稻
蠶 豆	苜 蓿	紫 雲 英	油 菜	稗 麥	大 麥
同	同	同	同	同	稻

○收益比較試驗 (大麥備前早生稗麥米 稗蠶豆早生豌豆早生)

有利ナル水田ノ裏作物ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 大 麥
- 第二區 稗 麥
- 第三區 油 菜
- 第四區 蠶 豆
- 第五區 豌 豆

○綠肥種類試驗 (米稗)

稗麥ノ間作トシテ各種豆菽類ノ優劣ヲ比較スルニアリ

- 第一區 夏 大豆
- 第二區 秋 大豆
- 第三區 豌豆
- 第四區 蠶 豆
- 第五區 苜 蓿
- 第六區 紫 雲 英

○大麥、馬鈴薯比較試驗 (大麥備前早生馬鈴薯アリス)

水田ノ裏作トシテ大麥ト馬鈴薯トノ優劣ヲ比較スルニアリ

- 第一區 大 麥
- 第二區 馬 鈴 薯

(紫雲英)

耕種ノ梗概

- 一、種類 類 信州
- 一、播種 種 九月十四日
- 一、播種量 一反歩ニ付キ三升
- 一、肥料 一反歩ニ付キ糞灰十五貫目
- 一、施肥期 十一月
- 一、防寒 十一月

○第一 種類試験

府下ニ適當スル良種ヲ撰出スルニアリ

- 第一 信州
- 第二 江州
- 第三 濃州

○第二 防寒試験

防寒ノ收量ニ及ボス關係ヲ驗知スルニアリ

- 第一 防寒ヲナサズ
- 第二 防寒ヲナス

○第三 石灰施用試験

石灰ヲ施用スルノ利害ヲ驗知スルニアリ

- 第一 施用セズ
- 第二 三貫目施用
- 第三 六貫目施用

〔苜蓿〕

耕種ノ梗概

- 一、苗床 苗床ハ畑ノ一隅ニ設ケ九月二十六日ニ一尺二寸ノ距離ニ蒔條ヲ作り十歩ニ付キ七貫目ノ割合ニテ人糞尿ヲ施シ之ニ種子(播種前一晝夜浸水シタルモノ)

一步ニ付キ苜蓿ハ一升ヲ連播シ少許ノ藎灰ヲ散布シ能ク踏付ケ藎覆ヲナシ白詰草、赤詰草ハ各三勺ヲ連播シ種子ノ隠ル、ヲ度トシテ細土ヲ覆ヒ更ニ其上ニ藎ヲ覆ヒ置キ發芽後各藎覆ヲ取除ク

一、移植 稻刈后濕氣多キ地ニ於ケル麥仕付ノ如ク三尺幅ノ畦ヲ設ケ株間二尺ヲ離レテ方一尺ノ淺孔ヲ穿テ一反歩當藎灰十五貫目及ビ過磷酸石灰五貫目ヲ施シ三月上旬其上ニ苜蓿、詰草等ヲ移植ス

○第一 苜蓿、詰草比較試驗

苜蓿ト詰草トノ收量ノ多寡如何ヲ比較スルニアリ

第一 苜蓿 詰

第二 白詰草

第三 赤詰草

第四 紫雲英

第一分場ノ部

〔天麥〕

耕種ノ梗概

一、畦 幅 二尺

一、株 間 畑ハ一尺 水田ハ七寸

一、撰 種 鹽水撰(水一斗ニ付食鹽四升或ハ苦鹽汁一斗ノ割合ニシテ比重一、一三)

一、黑穗豫防 夏土用中六時間種子ヲ冷水ニ浸シ後華氏百三十度ノ温湯ニ五分間浸シテ陽乾ス

一、肥 料 一反歩ニ對スル施肥量ハ左ノ如シ

肥料名	施用量	含有成分			價額
		窒素	磷酸	加里	
堆肥	二〇〇〇貫	一〇五〇	〇、五四六	一、三三三	一、六八〇
人糞	六〇、〇〇〇	〇、三四二	〇、〇七八	〇、二六二	一、〇二〇
大豆粕	七、〇〇〇	〇、五三七	〇、〇七七	〇、一一一	一、三三〇
過磷酸石灰	六、〇〇〇	—	〇、九〇〇	—	〇、八八二
葉灰	五、〇〇〇	—	〇、一〇五	〇、二三五	〇、四一七
計		一、九二九	一、七〇六	一、八二一	五、三二九

一、播種期 畑ハ十一月二日、三日、四日、水田ハ十一月十四日、十五日、十六日、十七日

一、播種量 畑ハ一反歩ニ付大粒種ハ四升五合小粒種ハ四升水田ハ小粒種四升五

合

一、中 耕 十二月中旬、三月上旬、三月下旬

一、麥 踏 臨時三四回

○第一 種類試験

各種ノ大麥ニ就テ生育ノ狀況、收量ノ多少ヲ比較シ以テ當場附近ニ適當ナル優良種ヲ撰出スルニアリ

區名	試験別	區名	試験別
第一	早生麥	第二	備前早生
第三	穂揃	第四	半芒
第五	借金根切	第六	六角
第七	虎の尾	第八	四石
第九	ゴルデン、メロン	第十	獨乙春蒔
第十一	ケー、ブ		

○第二 撰種法對播種量試験(備前早生)

善良ノ穂ヲ撰ミ鹽水撰ヲ行ヒ更ニ篩ニテ小粒ヲ除去シテ之ヲ薄播ニスルト在來ノ如ク單ニ唐箕撰ヲ行ヒタルモノヲ厚播ニスルトハ收量ニ如何ナル差ヲ生スルヤヲ知ル

ニアリ

- 第一區 在來法(一反步六升播)
- 第二區 對在來法(一反步四升播)

○第三 播種期對播種量試驗(備前早生)

當場附近畑地ニ於ケル大麥播種ノ適期ヲ知ルト共ニ播種期節ノ早晚ニヨリ種子ノ分量ヲ増減スルノ必要アルヤヲ知ルニアリ

- 第一區 十月二十日播 一反步  $\begin{matrix} 四 \\ 五 \\ 六 \end{matrix}$  升
- 第二區 十月三十日播 一反步  $\begin{matrix} 四 \\ 五 \\ 六 \end{matrix}$  升
- 第三區 十一月十日播 一反步  $\begin{matrix} 四 \\ 五 \\ 六 \end{matrix}$  升

- 第四區 十一月二十日播 一反步

$\begin{matrix} 四 \\ 五 \\ 六 \end{matrix}$  升

○第四 播種法對中耕法試驗(備前早生)

播種法及中耕法ノ相異ニヨリ收量ニ如何ナル差ヲ生スルヤヲ知ルニアリ

- 第一區 點播 普通中耕 第二區 條播 普通中耕
- 第三區 點播 土入中耕 第四區 條播 土入中耕

○第五 肥料用量試驗(備前早生)

肥料ノ用量ヲ増減シテ生育及收量ノ如何ヲ試ミ以テ畑作大麥ニ適當ナル施用量ヲ知ルニアリ

- 第一區 無肥料
- 第二區 當場普通肥料五割減
- 第三區 當場普通肥料二割五分減
- 第四區 當場普通肥料

(堆肥二百十貫目、人糞尿六十貫目、大豆粕七貫目、過磷酸石灰六貫目、葉灰五貫目)

第五區 當場普通肥料二割五分増

第六區 當場普通肥料五割増

第七區 當場普通肥料七割五分増

○第六 同價肥料配合法試験(備前早生)

在來肥料中ノ米糠ヲ過磷酸石灰ニ代ヘ且ツ藁灰ノ用量ヲ減シテ此等ノ爲ニ生スル剩餘ノ金額ヲ以テ他ノ肥料ヲ補フトキハ收量ニ如何ナル差異ヲ來スヤヲ試ミルニアリ

第一區 (堆肥百八十貫目、人糞尿三十貫目、米糠二十四貫目、藁灰十貫目)

第二區 (堆肥二百七十貫目、人糞尿百四十貫目、過磷酸石灰五貫目、藁灰六貫目)

第三區 (堆肥百八十五貫目、人糞尿三十貫目、大豆粕十三貫目、過磷酸石灰六貫目、藁灰六貫目)

○第七 過磷酸石灰施用法試験(備前早生)

過磷酸石灰ヲ藁灰ト共ニ元肥ニ施スト若クハ何レカ其一ヲ追肥ニ施ストノ得失ヲ試ミルニアリ

第一區 過磷酸石灰ヲ藁灰ト共ニ元肥ニ施ス

- 第二區 過磷酸石灰ヲ元肥ニ藁灰ヲ追肥ニ施ス
- 第三區 藁灰ヲ元肥ニ過磷酸石灰ヲ追肥ニ施ス

○第八 三要素試験(ゴールデン、メロン)

當場畑地ノ如キ土壤ニ大麥ヲ栽培スルニ當リ肥料三成分タル窒素、磷酸、加里ノ中何レヲ最も多ク要スルヤヲ査定シ以テ肥料配合ノ標準ヲ定ムルニアリ

但シ成分ノ量ハ各三貫目ツ、トシ窒素ハ硫酸安母尼亞、磷酸ハ過磷酸石灰、加里ハ硫酸加里ヲ以テ供給ス

- 第一區 無肥料
- 第二區 無窒素(磷酸、加里)
- 第三區 無磷酸(窒素、加里)
- 第四區 無加里(窒素、磷酸)
- 第五區 三要素(窒素、磷酸、加里)

○第九 栽培法試験(備前早生)

畑作大麥ニ對シ當場附近ニ於ケル在來作法ト當場作法トノ收量ニ及ホス差異ヲ知ルニアリ

第一區 當場作法 第二區 在來作法

第十 水田二毛作整地對播種期試驗(備前早生)

稻收穫後耕起整地シテ播種スルモノハ在來ノ如ク耕起セスシテ直ニ整地播種スルモノニ比シ數量ニ如何ナル差ヲ來スヤヲ試ミルト共ニ播種期ノ早晚ニヨリテ生スル所ノ差異ヲ併セ知ルニアリ

- 第一區 不耕起整地 十一月十日播
- 第二區 耕起整地 十一月十日播
- 第三區 耕起整地 十一月十七日播
- 第四區 耕起整地 十一月二十四日播

第十一 水田二毛作株間對畦幅距離試驗(備前早生)

水田二毛作ニ適當ナル株間及畦幅ノ距離ヲ知ルニアリ

- 第一區 畦幅一尺八寸 株間七寸 第二區 畦幅一尺八寸 株間一尺
- 第三區 畦幅二尺 株間七寸 第四區 畦幅二尺 株間一尺

第十二 水田二毛作整地試驗(備前早生)

畦床ノ廣狹ニヨリ收量ニ如何ナル差ヲ生スルヤヲ知ルニアリ

- 第一區 畦床ノ幅一間 第二區 畦床ノ幅二間

第十三 水田三毛作播種法試驗(備前早生)

點播ト條播トノ得失ヲ知ルニアリ

- 第一區 點播 第二區 條播

第十四 水田二毛作同價肥料試驗(備前早生)

在來肥料ト之ト略ホ價額ヲ同フセシ異種ノ配合肥料トハ收量ニ如何ナル差異ヲ來スヤヲ知ルニアリ

- 第一區 (堆肥百八十貫目、人糞尿百貫目、米糠十八貫目、藥灰六貫目)
- 第二區 (堆肥百八十貫目、人糞尿百貫目、大豆粕八貫目、過磷酸石灰五貫目、藥灰六貫目)
- 第三區 (堆肥二百四十貫目、人糞尿四十貫目、大豆粕十貫目、過磷酸石灰六貫目、藥灰六貫目)

第十五 水田二毛作肥料配合試驗(備前早生)

在來肥料ト略ホ成分ヲ同一ニセル種々ノ配合肥料ヲ用ヒテ收量ニ及ホス差異ヲ知ルニアリ

- 第一區 (堆肥百八十貫目、人糞尿百貫目、米糠十八貫目、藁灰六貫目)
- 第二區 (堆肥二百四十貫目、人糞尿六十貫目、大豆粕四貫目、過磷酸石灰三貫八百目、藁灰四貫目)
- 第三區 (堆肥二百四十貫目、人糞尿三十貫目、大豆粕六貫目、過磷酸石灰三貫八百目、藁灰五貫目)

第十六 水田二毛作追肥試験(備前早生)

人糞尿施用ノ回数及施用時期ノ差異ニヨリ數量ニ及ホス差如何ヲ知ルニアリ

但各區トモ一反歩ニ付人糞尿百貫目ノ外ニ堆肥百八拾貫目、米糠十八貫目、藁灰六貫目(在來肥料)ヲ施ス

- 第一區 人糞尿百貫目ヲ元肥一回ニ施用ス
- 第二區 人糞尿四拾貫目ヲ元肥ニ六拾貫目ヲ追肥トシテ十二月十五日ニ施ス
- 第三區 人糞尿四拾貫目ヲ元肥ニ六拾貫目ヲ追肥トシテ一月十五日ニ施ス
- 第四區 人糞尿拾四貫目ヲ元肥ニ六拾貫目ヲ追肥トシテ二月十五日ニ施ス

- 第五區 人糞尿四拾貫目ヲ元肥ニ施シ追肥トシテ三拾貫目ツ、十二月十五日二月十五日ノ二回ニ施ス

第十七 水田二毛作肥料用量試験(備前早生)

肥料ノ用量ヲ増減シテ生育及收量ノ如何ヲ試ミ以テ水田二毛作大麥ニ適當ナル施用量ヲ知ルニアリ

- 第一區 無肥料
- 第二區 當場普通肥料五割減
- 第三區 當場普通肥料二割五分減
- 第四區 當場普通肥料 (堆肥二百四十貫目、人糞尿六十貫目、大豆粕七貫目、過磷酸石灰六貫目、藁灰五貫目)
- 第五區 當場普通肥料二割五分増
- 第六區 當場普通肥料五割増

第十八 水田二毛栽培法試験(備前早生)

當場附近ノ在來作法ト當場作法トノ收量ニ及ホス差異ヲ知ルニアリ



第一區 當場作法  
第二區 在來作法

〔小麥〕

耕種ノ梗概

- 一、畦 幅 二尺
- 一、株 間 一尺
- 一、種 類 柳窪
- 一、撰 種 鹽水撰（比重一、二ニシテ鹽膽汁一斗ニ凡水三升ノ割合）
- 一、黑穗豫防 冷水温湯浸（大麥ニ同シ）
- 一、肥 料 一反歩ニ對スル施用量ハ左ノ如シ

肥料名	施用量	含有成分			價額
		窒素	磷酸	加里	

堆肥	一五〇、〇〇〇	〇、七五〇	〇、三九〇	〇、九四五	一、二〇〇
人糞	四〇、〇〇〇	〇、二二八	〇、〇五二	〇、一〇八	〇、六八〇
大豆粕	五、〇〇〇	〇、三八四	〇、〇五五	〇、〇七九	〇、九四三
過磷酸石灰	四、〇〇〇	—	〇、六〇〇	—	〇、五八八
葉灰	四、〇〇〇	—	〇、〇八四	〇、一八一	〇、三三三
計	—	一、三六二	一、一八一	一、三二三	三、七四四

- 一、播種期 十月廿六日、廿九日、十一月三日
- 一、播種量 一反歩ニ付大粒種ハ三升五合、小粒種ハ三升トス
- 一、中 耕 十二月中旬、三月上旬、三月下旬
- 一、麥 踏 臨時ニ三四回行フ

○第一 種類試験

當場附近ニ適當ナル優良種ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 早生小麥
- 第二區 白 莢

- 第三區 十 條
- 第四區 赤 坊 主
- 第五區 相 州
- 第六區 柳 窪
- 第七區 春 慶
- 第八區 フ ル ツ
- 第九區 オ レ ゴ ン
- 第十區 ヘルベツト、チャツフ
- 第十一區 レツド、チャツフ

○第二 株間距離試験

株間距離ノ廣狹ニヨリ收量ニ及ホス差異ヲ知ルニアリ

- 第一區 株間 一尺
- 第二區 株間 一尺二寸

第三區 株間一尺五寸

○第三 黑穗豫防試験

黑穗豫防ヲ施シテ播種シタルモノハ在來ノ如ク豫防ヲ行ハスシテ播種シタルモノニ比シ黑穗ノ發生及小麥ノ收量ニ如何ナル差異ヲ來スヤヲ知ルニアリ

- 第一區 無 豫 防
- 第二區 夏季種子ヲ六時間冷水ニ浸シ後華氏百三十度ノ溫湯ニ五分間浸シテ陽乾ス
- 第三區 夏季種子ヲ四十八時間冷水ニ浸シテ陽乾ス

○第四 同價肥料配合法試験

在來肥料中ノ米糠ニ代フルニ過磷酸石灰ヲ以テシ且藁灰ノ施用量ヲ減シ之カ爲ニ生スル剩餘ノ金額ヲ以テ他ノ肥料ヲ附加スルトキハ生育及收量ニ如何ナル差異ヲ來スヤヲ知ルニアリ

- 第一區 (堆肥百五十貫目、人糞尿二十貫目、米糠十二貫目、藁灰六貫目)
- 第二區 (堆肥百八十貫目、人糞尿七十貫目、過磷酸石灰四貫目、藁灰四貫目)

第三區 (堆肥百五十貫目、人糞尿二十貫目、大豆  
粕五貫目、過燐酸石灰五貫目、燐灰四貫目)

第五 直播移植比較試験

甘藷或ハ蘿蔔ヲ收穫シタル跡地ニ普通ノ期節ヨリモ晩ク直播シタルモノハ豫メ仕立  
置タル苗ヲ移植シタルモノニ比シ收量ニ如何ナル差異ヲ生スルヤヲ知ルニアリ

- 第一區 直播
- 第二區 移植

第六 收穫期試験

收穫期ノ早晚ニヨリ收量ニ及ホス差異如何ヲ知ルニアリ

- 第一區 早刈 (穂ノ黄變セシキ)
- 第二區 中刈 (穂首ノ黄變セシキ)
- 第三區 晩刈 (稈ノ黄變セシキ)

第七 栽培法試験

當場附近ニ於ケル在來ノ耕作法ト當場普通耕作法トハ收量ニ如何ナル差異ヲ及ホス

ヤヲ知ルニアリ

- 第一區 當場作法
- 第二區 在來作法

(裸麥)

耕種ノ梗概

- 一、畦 幅 二尺
- 一、株 間 一尺
- 一、種 類 米稈
- 一、撰 種 鹽水撰 (小麥ニ同シ)
- 一、黑穗豫防 冷水温湯浸 (大小麥ニ同シ)
- 一、肥 料 一反歩ニ施與スル肥料ハ左ノ如シ

肥料名	施用 量	含有成分			價額
		窒素	磷酸	加里	
堆肥	二〇、〇〇〇貫	一〇、五〇〇貫	〇、五四六貫	一、三三三貫	一、六八〇圓
人糞	五〇、〇〇〇貫	〇、二八五貫	〇、〇六五貫	〇、一三五貫	〇、八五〇圓
大豆粕	六、〇〇〇貫	〇、四六〇貫	〇、〇六六貫	〇、〇九五貫	一、一三二圓
過燐酸石灰	五、〇〇〇貫	〇、〇七五貫	〇、一〇五貫	〇、〇〇〇貫	〇、七三五圓
燐灰	五、〇〇〇貫	一、七九五貫	一、五三二貫	一、七七八貫	四、八一四圓
計					

一、播種期 十一月五日、六日

一、播種量 一反歩ニ付三升五合

一、中耕 十二月中旬、三月上旬、三月下旬

一、麥踏 臨時三四回

○第一 種類試驗

當場附近ニ適當ナル優良種ヲ撰出スルニアリ

第一區	船早生
第二區	米稜
第三區	半芒白稜
第四區	日廻
第五區	南京
第六區	豐島
第七區	長毛
第八區	三島
第九區	長州
第十區	豐年
第十一區	宗兵衛
第十二區	白稜
第十三區	餅麥

第十四區 糯 麥  
 第十五區 糯 稗  
 第十六區 餅 稗

○第二 栽培法試驗

當場附近ニ於ケル在來作法ト當場作法トノ收量ニ及ホス差異如何ヲ知ルニアリ

第一區 當場作法

第二區 在來作法

〔豌豆〕

耕種ノ梗概

- 一、畦 幅 二尺
- 一、株 間 一尺五寸
- 一、播 種 十一月十五日

- 一、播種粒數 一株ニ付四粒
- 一、肥料 一反歩當リ肥料ハ左ノ如シ

肥料名	施用量	含有成分			價額
		窒素	磷酸	加里	
堆肥	九〇〇〇〇貫	〇、四五〇	〇、二三四	〇、五六七	〇、七二〇
人糞尿	二〇、〇〇〇	〇、一一四	〇、〇二六	〇、〇五四	〇、三四〇
過磷酸石灰	四、〇〇〇	—	〇、六〇〇	—	〇、五八八
炭灰	六、〇〇〇	〇、五六四	〇、九八六	〇、二七〇	〇、五〇〇
計				〇、八九一	二、一四八

一、中 耕 十二月中旬、三月下旬

○第一 播種期試驗

當場附近ニ於ケル播種ノ適期ヲ知ルニアリ

第一區 十一月五日播

第三區 十一月十五日播

第三區 十一月廿五日播

◎第二 同價肥料試驗

當場附近ノ在來肥料ト略ホ同價額ヲ以テ異種ノ肥料配合ヲナシ其收量ニ及ホス差異如何ヲ知ルニアリ

第一區 (堆肥百二十貫目、人糞尿二十貫目、米糠三貫目、藥灰六貫目)

第二區 (堆肥九十貫目、人糞尿二十貫目、過磷酸石灰四貫目、藥灰六貫目)

〔肥料蘿蔔〕

なわしろだいこん又はたな

耕種ノ梗概

一、畦 幅 二尺

一、株 間 一尺五寸

一、撰 種 水撰

一、播種期 十月十日

一、播種量 一反歩ニ付五合

一、中 耕 十一月二十日、三月十日

一、追 肥 一月十五日

◎第一 一要素多量試驗

肥料蘿蔔ノ肥料トシテ三成分中何レヲ多ク施ス必要アルヤヲ知ルニアリ

第一區 窒素多量

第二區 磷酸多量

第三區 加里多量

〔紫雲英〕

耕種ノ梗概

一、播 種 九月十六日水稻ノ株間ニ撒播ス

- 一、播種量 一反歩ニ付三升
- 一、肥料 十一月七日一反歩ニ付糞灰十五貫目ヲ施ス
- 一、防寒 十一月七日一反歩ニ付凡ソ二十貫目ノ屑糞ヲ散布ス

○第一 種類試験

紫雲英ノ優良種ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 信濃種
- 第二區 尾張種
- 第三區 美濃種
- 第四區 近江種

〔雜〕

○第一 畑作綠肥種類試験

畑作綠肥トシテ適當ナル種類ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 苜蓿
- 第二區 肥料蘿蔔
- 第三區 肥料豌豆

○第二 水田作綠肥種類試験

水田ニ毛作トシテ適當ナル綠肥ノ良種ヲ撰出スルニアリ

- 第一區 紫雲英
- 第二區 苜蓿

(備考) 苜蓿及肥料豌豆ノ栽培法ハ左ノ如シ

苜蓿

- 一、播種法 水田ニ於テハ凡ソ二尺四方ニ一株ツ、ノ割合ヲ以テ豫メ一晝夜間浸水シタル種子ヲ稻ノ株間ニ下種シ種子ヲ能ク土中ニ踏込ム
- 畑ニ於テハ畦幅二尺株間一尺五寸トシ豫メ一晝夜間浸水シタル種子ヲ下種シ少シク覆土ヲナス

- 一、播種期 水田ハ九月十六日畑ハ九月二十二日
- 一、播種量 一反歩ニ付莢付種子一石
- 一、肥料 一反歩ニ付藁灰十五貫目トシ水田ハ十一月七日畑ハ十一月十五日ニ施ス
- 一、防 寒 一反歩ニ付凡ソ二十貫目ノ屑藁ヲ水田ニテハ十一月七日畑ニテハ十一月十五日ニ散布ス

肥料豌豆

- 一、畦 幅 二尺
- 一、株 間 一尺五寸
- 一、播種期 十月十日
- 一、播種量 一反歩ニ付三升
- 一、肥料 一反歩ニ付左ノ如シ  
堆肥百二十貫目 過磷酸石灰三貫目 藁灰三貫目

人糞尿十貫目

- 一、中 耕 十二月二十一日

第二分場ノ部

藺之部

耕種ノ梗概

- 一、苗 苗ハ藺ヲ收穫スル際土際ヨリ一寸許リ高ク刈リ置キ周圍ニ畦ヲ造リ少シク水ヲ湛ヘ置キ九月下旬別ニ設ケン苗代田ニ方三寸ノ距離ヲ以テ移植シ専ラ苗ノ生育ト分蘖トヲ促シ本田ニ移植ノ前日之ヲ掘起シ莖數凡ソ十本ヲ有スル小株ニ分チ苗トナス
- 一、肥料 苗代一反歩ニ用ユル肥料左ノ如シ



肥料名	總量	基肥	追肥
人糞尿	一六〇,〇〇〇 貫	八〇,〇〇〇 貫	八〇,〇〇〇 貫

一、追肥期 十月中旬  
 一整地及施肥 水稻收穫ノ後鋤ヲ以テ耕起細碎シ後灌水シテ常ニ一寸餘ノ深ニ水ヲ  
 湛ヘ置キ移植期ニ至ル迄耕耘ヲ行フコト三回トス而シテ十一月中旬第二回ノ耕起  
 ニ際シ厩肥ヲ施シ移植前日即チ第三回耕起ノ時大豆粕及過磷酸石灰ヲ施シ細碎シ  
 且平坦ナラシム

一、移植期 十二月中旬  
 一、移植法 方四寸ノ距離ニ倒レサル限リ淺植ス  
 一、肥料 一反歩ニ對スル施肥量左ノ如シ

肥料名	總量	追肥			價額
		第一回	第二回	第三回	
大豆粕	五,〇〇〇 貫	—	—	一,五〇〇 貫	一,五〇〇 貫
人糞尿	五,〇〇〇 貫	—	—	〇,八五〇 貫	一,一八〇 貫
過磷酸石灰	三,〇〇〇 貫	—	—	九,三〇五 貫	四,〇四七 貫
計	—	—	—	—	—

肥料名	總量	追肥			價額
		第一回	第二回	第三回	
大豆粕	五,〇〇〇 貫	—	—	一,五〇〇 貫	一,五〇〇 貫
人糞尿	五,〇〇〇 貫	—	—	〇,八五〇 貫	一,一八〇 貫
過磷酸石灰	三,〇〇〇 貫	—	—	九,三〇五 貫	四,〇四七 貫
計	—	—	—	—	—

一、追肥期 二月下旬、五月上旬  
 一、除草 二月下旬

○第一 蘭苗種類試驗

廣島、岡山、及石見ニ於テ栽培スル蘭苗ヲ以テ生育、收量及品質ヲ比較セントスル  
 ニアリ

- 第一區 廣島種
- 第二區 岡山種
- 第三區 石見種

○第二 肥料用量試驗

肥料用量ノ増減ハ收量ニ如何ナル關係ヲ及ホスヤヲ研究シ併テ經濟上適當ナル肥料ノ用量ヲ知ラントスルニアリ

- 第一區 二割五分減
- 第二區 普通肥料
- 第三區 三割五分増
- 第四區 五割増

### 葱頭之部

耕種ノ梗概

一、苗床及下種法 能ク畑地ヲ耕鋤細碎シ巾三尺長適宜ノ短冊形ノ苗床ヲ造リ一畝歩ニ付人糞尿拾八貫ヲ二倍ノ水ト混シタルモノヲ施シ其乾キタルヲ待チならし板ヲ以テ床面ヲ均ラシ且少シク鎮壓ヲ行ヒ其上ニ一坪ニ付キ二勺ノ割合ニ種子ヲ下シさらゑヲ以テ深サ三四分ニ輕ク縱横ニ搔キ更ニならし板ヲ以テ僅ニ鎮壓

シ其上ニ藁灰ヲ一畝歩ニ付キ三貫ノ割合ニテ施シ尙種子ノ見ヘサルヲ度トシ土ヲ覆ヒ其上ニ藁ヲ覆フテ土地ノ乾燥ヲ防キ發芽後之ヲ除去ス而シテ苗ノ生育スルニ從ヒ間引ヲ行ヒ且一畝歩ニ付キ稀薄ニナシタル人糞尿拾八貫ヲ追肥トシテ施スコト二回トス又乾燥スル時ハ時々灌水ヲ行フ

- 一、追肥期 十月上旬、十一月中旬
- 一、播種期 九月下旬
- 一、移植期 十二月下旬
- 一、畦 巾 一尺五寸
- 一、株 間 五寸
- 一、一株苗數 一本
- 一、肥料 一反歩ニ施用スル肥料ハ左ノ如シ

肥料名	總量	基肥	追肥			三成分	價額
			一回	二回	三回		
			窒素	磷酸	加里		

腐肥	二五〇,〇〇〇 貫	二五〇,〇〇〇 貫				一貫	一貫	三,七五〇 圓
入糞尿	五〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇 貫	二五〇,〇〇〇 貫	一五〇,〇〇〇 貫	二,五〇〇 貫	〇,八五〇	四,三〇〇
過燐酸石灰	六,〇〇〇	六,〇〇〇				〇,九〇〇	〇,一〇〇	〇,一〇〇
葉灰	六,〇〇〇	六,〇〇〇				〇,三〇〇	〇,七〇〇	〇,〇〇〇
計						三,八五〇	三,〇〇〇	九,三〇〇

一、追肥時期 第一回、第二回、第三回

●第一 種類試験

黄、白、赤三種ノ優劣ヲ比較シ當地方ニ適スル良種類ヲ知ラントスルニアリ

第一區 白葱頭

第二區 赤葱頭

第三區 黄葱頭

●第二 葉根切斷試験

葱頭ヲ移植スルニ當リ苗ノ葉根ヲ切斷スルノ利害ヲ知ラントスルニアリ

第一區 普通植

- 第二區 根ヲ三分ノ一切斷シタルモノ
- 第三區 葉ヲ三分ノ一切斷シタルモノ
- 第四區 葉根共ニ三分ノ一切斷シタルモノ

●第三 株間距離試験

葱頭株間距離ノ廣狹ハ其生育及收量ニ如何ナル關係アルヤヲ驗知シ併テ適當ナル株間距離ヲ知ラントス

第一區 三寸

第二區 五寸

第三區 七寸

●第四 直播、移植比較試験

葱頭ヲ栽培スルニ當リ直播セシモノト移植セシモノトハ其生育及ヒ收量ニ如何ナル差アルモノナルヤヲ知ラントスルニアリ

第一區 直播

第二區 移植

○第五 三要素適量試驗

葱頭ノ肥料トシテ施用スヘキ肥料三成分ノ適量ヲ檢知シ以テ肥料配合ノ標準トナサ  
ントスルニアリ

- 第一區 無 窒 素
- 第二區 窒素二貫匁
- 第三區 窒素三貫匁
- 第四區 窒素四貫匁
- 第五區 窒素五貫匁
- 第六區 窒素六貫匁
- 第七區 無 磷 酸
- 第八區 磷酸五百匁
- 第九區 磷酸一貫匁

- 第十區 磷酸二貫匁
- 第十一區 磷酸三貫匁
- 第十二區 磷酸四貫匁
- 第十三區 磷酸五貫匁
- 第十四區 無 加 里
- 第十五區 加里五百匁
- 第十六區 加里一貫匁
- 第十七區 加里二貫匁
- 第十八區 加里三貫匁
- 第十九區 加里四貫匁
- 第二十區 加里五貫匁

甘藍之部

耕種ノ梗概

- 一、苗 床 巾四尺長適宜ノ苗床ヲ造リ床地ヲ淺ク耕鋤細碎シ一畝歩ニ付キ人糞尿十八貫匁ヲ同量ノ水ニテ稀薄シタルモノヲ施シ其上ニ薄ク細土ヲ篩ヒ掛テ表面ヲ平ニ均歷シ二寸ノ距離ニ條播ス而シテ發芽後間引キテ二寸トス
- 一、假 植 苗床ト同一ノ方法ヲ以テ床ヲ造リ苗ノ眞葉二葉ヲ生セシ時方三寸ノ距離ニ第一回假植ヲナシ四葉生セシ時方五寸ニ第二回假植ヲナス
- 一、定 植 本葉八葉ヲ生セシ時
- 一、播種期 九月下旬
- 一、畦 巾 二尺五寸
- 一、株 間 二尺
- 一、肥 料 一反歩當リノ施肥量ハ左ノ如シ

肥料名	總量	基肥	追肥			三成分			價額
			一回	二回	三回	窒素	磷酸	加里	
厩肥	100,000貫	100,000貫				1,000貫	0,500貫	1,500貫	3,000圓
餅粕	5,000貫	5,000貫				0,500貫	0,100貫	0,050貫	1,750圓
人糞尿	400,000貫	100,000貫	100,000貫	100,000貫	100,000貫	2,000貫	0,500貫	1,000貫	3,800圓
過磷酸石灰	6,000貫	6,000貫				3,000貫	2,000貫	1,000貫	9,000圓
計						3,000貫	3,100貫	3,550貫	9,450圓

第一 種類試験

甘藍各種ノ優劣ヲ比較シ當地方ニ適スル良種ヲ見出サントスルニアリ

- 第一區 アーリー、ライトニング
- 第二區 マンモース、ドラムヘッド
- 第三區 シューキャンタル
- 第四區 ヘンダーソン、アーリー、サンマー
- 第五區 シュージョルク
- 第六區 シュールジュ
- 第七區 シュージョアネー

- 第八區 ラプトン
- 第九區 ヘンダーソン、オートム、キング
- 第十區 シューキョウルドブトフ
- 第十一區 バンダーゴ

○第二 假植回数試験

假植回数ノ多寡ハ生育結球及收量ニ如何ナル關係ヲ生スルカヲ驗知シ適當ナル假植回数ヲ知ラントスルニアリ

- 第一區 無假植
- 第二區 一回假植
- 第三區 二回假植
- 第四區 三回假植
- 第五區 四回假植

○第三 肥料用量試験

肥料用量ノ多寡ハ生育結球及收量ニ如何ナル關係アルヤヲ驗知シ併セテ經濟的肥料用量ヲ知ラントスルニアリ

- 第一區 二割五分減
- 第二區 普通肥料
- 第三區 二割五歩増
- 第四區 五割増

○第四 三要素適量試験

甘藍ノ肥料トシテ施用スヘキ肥料三成分ノ適量ヲ驗知シ以テ肥料配合ノ標準トナサントスルニアリ

- 第一區 無窒素
- 第二區 窒素二貫匁
- 第三區 窒素三貫匁
- 第四區 窒素四貫匁

- 第五區 窒素五貫匁
- 第六區 窒素六貫匁
- 第七區 無 磷酸
- 第八區 磷酸五百匁
- 第九區 磷酸一貫匁
- 第十區 磷酸二貫匁
- 第十一區 磷酸三貫匁
- 第十二區 磷酸四貫匁
- 第十三區 磷酸五貫匁
- 第十四區 無 加里
- 第十五區 加里五百匁
- 第十六區 加里一貫匁
- 第十七區 加里二貫匁

- 第十八區 加里三貫匁
- 第十九區 加里四貫匁
- 第二十區 加里五貫匁

### 大麥之部

耕種ノ梗概

- 一、整地 前作物收穫後凡七寸ノ深ニ鋤キ返シ鍬ニテ均ラシ後下種溝ヲ造ル
- 一、畦巾 二尺
- 一、撰種 比重一、一三ノ鹽水ニ沈ミタルモノヲ用フ
- 一、麥奴豫防 六時間冷水ニ浸シ後チ華氏百三十度ノ温湯ニ五分間浸シ陽乾ス
- 一、肥料 一反步當リ施用肥量ハ左ノ如シ

厩肥	肥料名	總量	基肥	追肥			價額
				一回	二回	三回	
二〇〇〇貫		二〇〇〇貫		—	—	—	三二圓
						窒素 一貫匁	
						磷酸 〇貫匁	
						加里 一貫匁	

入 糞 尿	一五,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	〇,八五五	〇,一五五	〇,五〇四	一,五八八
過 磷 酸 石 灰	六,〇〇〇	六,〇〇〇				〇,二〇〇		〇,八一〇
炭 灰	六,〇〇〇	六,〇〇〇				〇,二七五	〇,二五〇	〇,三〇〇
計					一,〇五五	一,七五五	一,九六八	五,七一八

一、播種期 十月下旬

一、播種法 條播

一、種子量 大粒五升五合、小粒五升

○第一 種類試驗

防風用トシテ蔬菜ノ間作ニ適スル良種ヲ驗出セントスルニアリ

- 第一區 白 奴
- 第二區 備前早生
- 第三區 はきだめ

- 第四區 四 國
- 第五區 六 角
- 第六區 早 生 麥
- 第七區 半 芒
- 第八區 六角シユハリエー
- 第九區 ゴルデンメロン
- 第十區 三 德
- 第十一區 谷 風
- 第十二區 關 取
- 第十三區 六角一本

稈麥之部

耕種ノ梗概ハ大麥ト同シ但其異ナルモノヲ左ニ掲ク



一、撰種 比重一、二二ノ鹽膽水ニ沈ミタルモノヲ用フ  
 一、肥料 一反步當リ施肥量ハ左ノ如シ

肥料名	總量	基肥	追肥		窒素	磷	成分	價額
			一回	二回				
厩肥	一〇,〇〇〇貫	一〇,〇〇〇貫			〇,〇〇〇貫	〇,〇〇〇貫	一,二〇〇貫	二,七〇〇圓
人糞尿	一五,〇〇〇貫	五,〇〇〇貫			〇,八〇〇貫	〇,四〇〇貫	〇,四〇〇貫	一,四〇〇圓
過磷酸石灰	六,〇〇〇貫	六,〇〇〇貫				〇,九〇〇貫		〇,八〇〇圓
藥灰	六,〇〇〇貫	六,〇〇〇貫				〇,三〇〇貫	〇,二〇〇貫	〇,三〇〇圓
計					一,七〇〇貫	一,六〇〇貫	一,八〇〇貫	五,二〇〇圓

一、播種量 四升五合

◎第一 種類試験

防風用蔬菜間作ニ適スル良種ヲ知ラントスルニアリ

第一區 米 稈

- 第二區 三島
- 第三區 早熟
- 第四區 南京
- 第五區 こびん
- 第六區 早生稈
- 第七區 大粒
- 第八區 舟麥

〔雜〕

(蠶豆)

耕種ノ梗概

一、播種期 十月中旬

一、畦 巾二尺

一、株 間 一尺五寸

一、播種法 一ヶ所二粒ツ、下種ス

一、播種量 凡六升

一、播種料 凡六升

一、肥料 一反步當リ施肥量ハ左ノ如シ(元肥ニ用ユ)

肥料名 總 量

厩 肥 一〇〇、〇〇〇貫

過磷酸石灰 一二、〇〇〇

藎 灰 三〇、〇〇〇

○第一 種類試驗

第一 早生蠶豆

第二 於多福蠶豆

第三 一寸蠶豆

(豌豆)

耕種ノ梗概

一、畦 巾 二尺

一、株 間 一尺五寸

一、播種量 一株三粒

一、播種期 十月中旬

一、肥料 一反步左ノ如シ(元肥トシテ施ス)

肥料名 總 量

厩 肥 一〇〇、〇〇〇貫

過磷酸石灰 四、〇〇〇

藎 灰 九、〇〇〇

○第一 種類試驗

第一區 日本莢豌豆

- 第二區 日本つるなし豌豆
- 第三區 佛國大莢豌豆
- 第四區 洋種つるなし豌豆

(龜戸大根)

耕種ノ梗概

- 一、整地及防寒法 畑地ヲ耕起細碎シ巾三尺通路一尺ニ區劃シ巾三尺ノ處ニ三條ノ下種溝ヲ設ケ種子ヲ散播シ少シク土ヲ覆ヒ粃殻ヲ散布ス又通路ヨリ糞糞ヲ以テ全壟ヲ被覆スル如ク斜ニ北方ヨリ覆ヲナス
- 一、下種期 十一月下旬
- 一、播種量 一反歩二升五合
- 一、肥料 一反歩當リ左ノ如シ

總量

基肥

追肥

人糞尿 一四四〇、〇〇〇 九〇〇、〇〇〇 五四〇、〇〇〇

◎第一 肥料用量試験

- 第一區 二割五步減
- 第二區 普通肥料
- 第三區 二割五步増
- 第四區 五割増

(紫雲英、苜蓿)

紫雲英ノ耕種梗概

- 一、整地 當場水田ハ卑濕ニシテ常ニ水ニテ堪ヘラル、カ故ニ水稻刈取後方能 鋤ヲ以テ巾四尺ツ、ニ耕起シ粗雜ナル壟ヲ造リ其上ニ撒播ス
- 一、播種期 十月中旬
- 一、播種量 一反歩ニ付二升

一、肥料 一反歩左ノ如シ

肥料名	總量	基肥	追肥
過磷酸石灰	九貫 〇〇〇	三貫 〇〇〇	六貫 〇〇〇
藪灰	二一、〇〇〇	七、〇〇〇	一四、〇〇〇

一、追肥期 三月初旬

一、防寒 十一月下旬藪ヲ散布ス

苜蓿ノ耕種梗概

一、整地 紫雲英ニ同シ

一、播種 九月中旬畑ニ巾四尺長適宜ノ苗床ヲ設ケ之ニ一畝歩當リ十八貫ノ割合ニテ人糞尿ヲ施シ下種前一晝夜浸水シ置キタル種子ヲ取り出シ水ヲ切り直ニ藪灰ヲ揉塗シ恰モ團子ノ如クナシタルモノヲ一歩一升ノ割合ニテ散布シ足ニテ踏壓シ其上ヲ藪ニテ覆ヒ發芽後之ヲ除去ス

一、移植 十一月中旬壟上株間二尺ヲ離レテ方八九寸ノ淺孔ヲ穿テ肥料ヲ施シ

其上ニ方五寸ニ切斷シタル苜蓿苗ヲ植ヘ足ニテ踏ミ付ク

一、肥料 紫雲英ニ同シ

○第一 苜蓿ト紫雲英トノ收量比較

第一區 苜蓿

第二區 紫雲英

9/3/17

明治三十七年一月十九日印刷  
明治三十七年一月二十三日發行

# 東京府農事試驗場

(豊多摩郡中野町)

東京市麴町區下六番町十七番地

印刷者 松澤 玘三

印刷所 (電話番町) 同 勞 舍  
(三六九番)

97  
149

[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

97
149

